

2019年3月期 第2四半期決算説明会

1. 第2四半期決算の概要(連結)
2. 通期の業績見通し
3. 当社の経営戦略

2018年11月7日

日本光電工業株式会社

証券コード : 6849

<https://www.nihonkohden.co.jp>

Fighting Disease with Electronics



NIHON KOHDEN

1

第2四半期決算の概要(連結)

1) 当第2四半期の決算概要

(単位:百万円、単位未満切捨て)

	前第2四半期 累計(2017/9)	当第2四半期 累計(2018/9)		
		期初予想	実績	対前年同期 増減率(%)
売上高	76,648	80,000	79,050	3.1
国内売上高	56,241	-	57,857	2.9
海外売上高	20,407	-	21,192	3.8
売上総利益 (売上総利益率)	36,500 47.6%	-	38,649 48.9%	5.9
営業利益 (営業利益率)	3,128 4.1%	3,100 3.9%	4,260 5.4%	36.2
経常利益	3,722	3,100	5,270	41.6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,541	2,100	3,916	54.1

平均レート	(2017/9)	(2018/9)
1ドル	111.3円	109.7円
1ユーロ	126.1円	129.2円

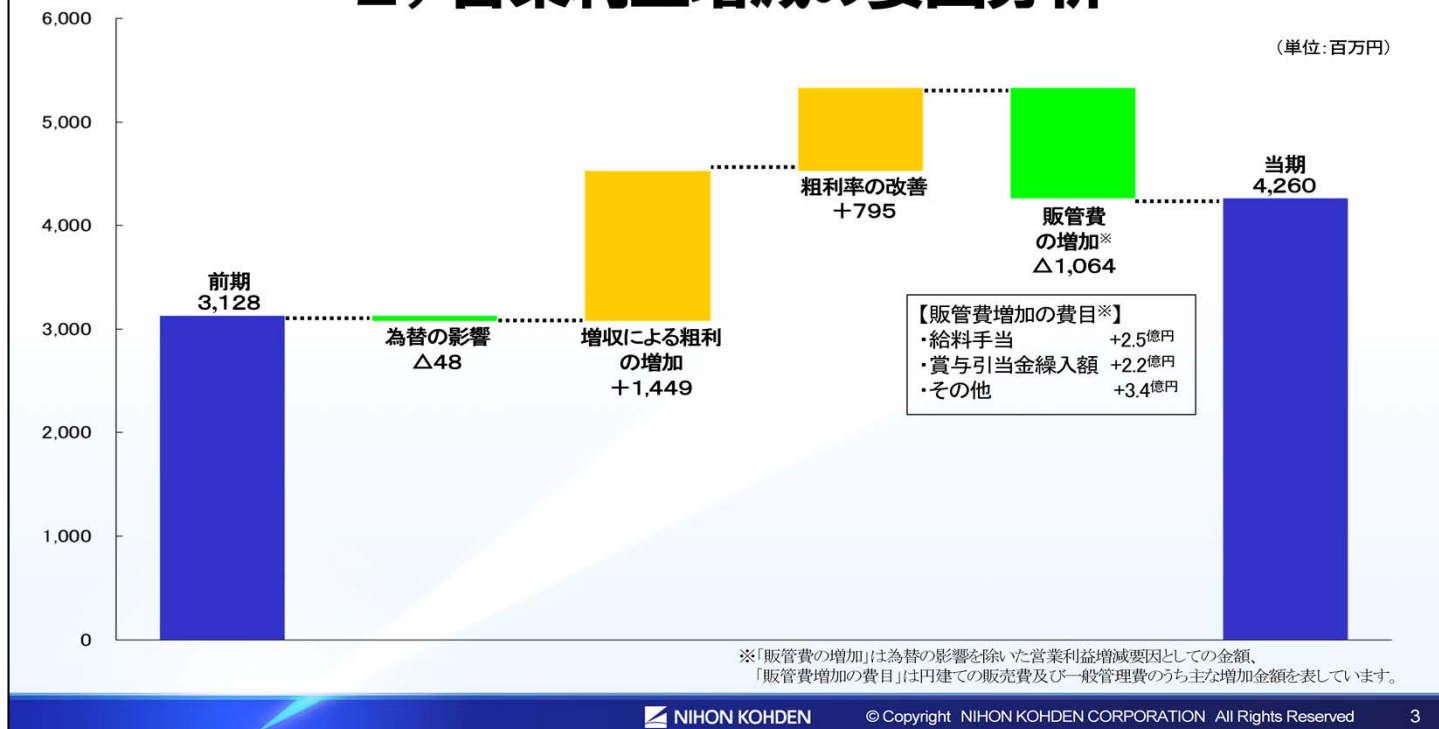
← 為替影響除く: +4%

← 自社品 2017/9 2018/9
売上比率 63.1% 64.1%

← 為替差益 2017/9 2018/9
257百万円 701百万円

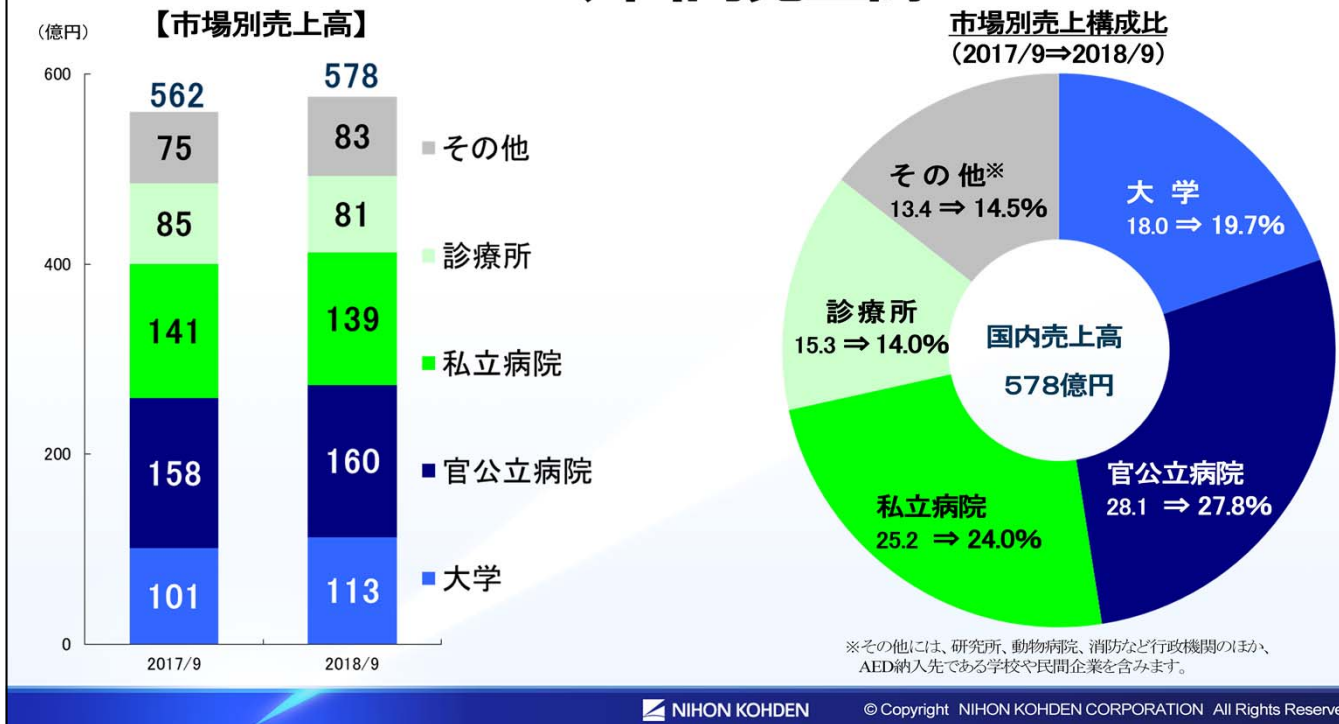
- 売上高は前年同期比3.1%増の790億円となりました。国内売上高は2.9%増の578億円、海外売上高は3.8%増の211億円、現地通貨ベースでは4%の増加となりました。
- 期初予想に対しては、国内は計画どおりの進捗でしたが、欧州とアフリカ地域が低調だったことから、全体で10億円下回りました。
- 粗利率は全社的に改善に取り組み、1.3%ポイント増の48.9%となりました。
- 営業利益は、増収効果に加え、一部費用が下期に期ずれしたこともあり、36.2%増の42億円となりました。
- 経常利益については、為替差益の計上により、41.6%増の52億円となりました。

2) 営業利益増減の要因分析



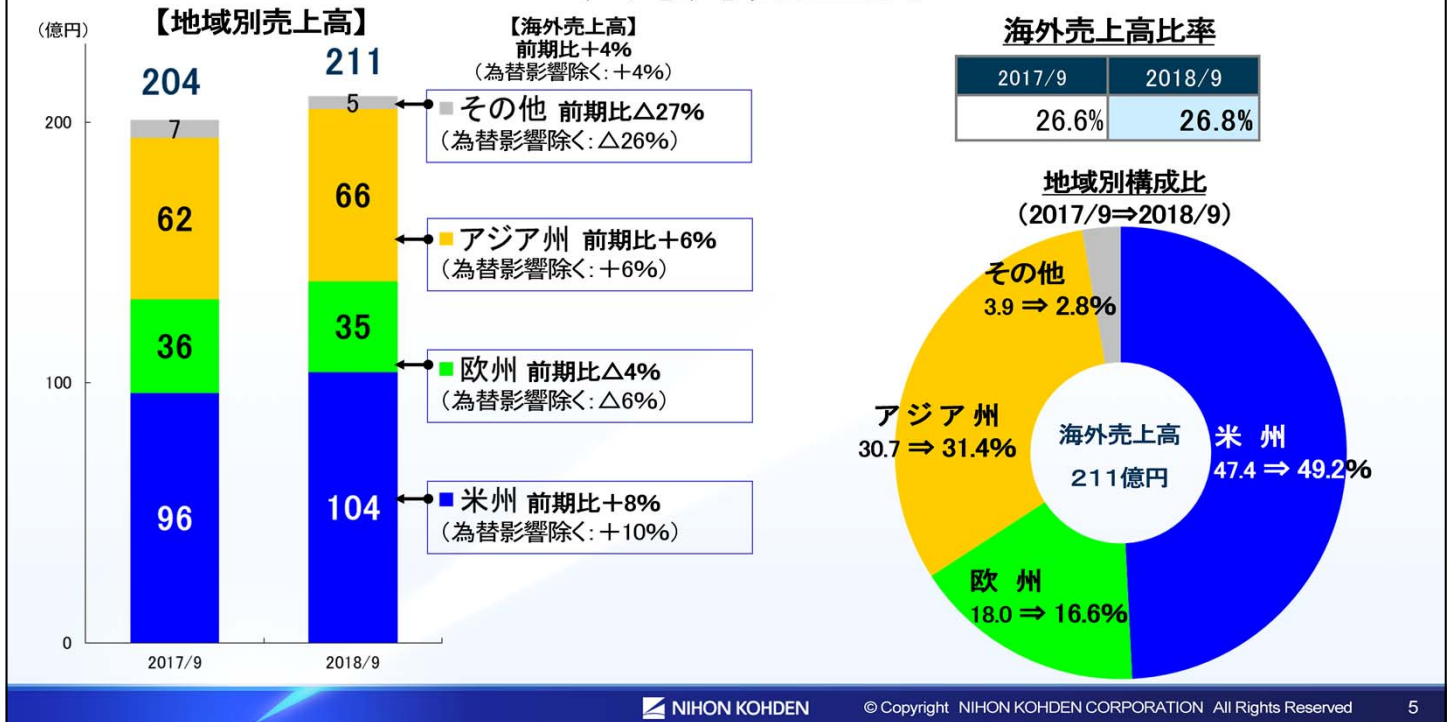
- 営業利益が、前期の31億円から42億円に増加した要因について、ご説明します。
- 為替の影響につきましては、4千8百万円のマイナス要因となりました。
- 増収による粗利の増加は、14億円となりました。
- 粗利率につきましては、国内外で自社品の販売に注力するとともに、富岡、上海でコストダウンに取り組み、7億円のプラス要因となりました。
- 販管費につきましては、人員の増強などにより、10億円のマイナス要因となりました。

3) 国内売上高



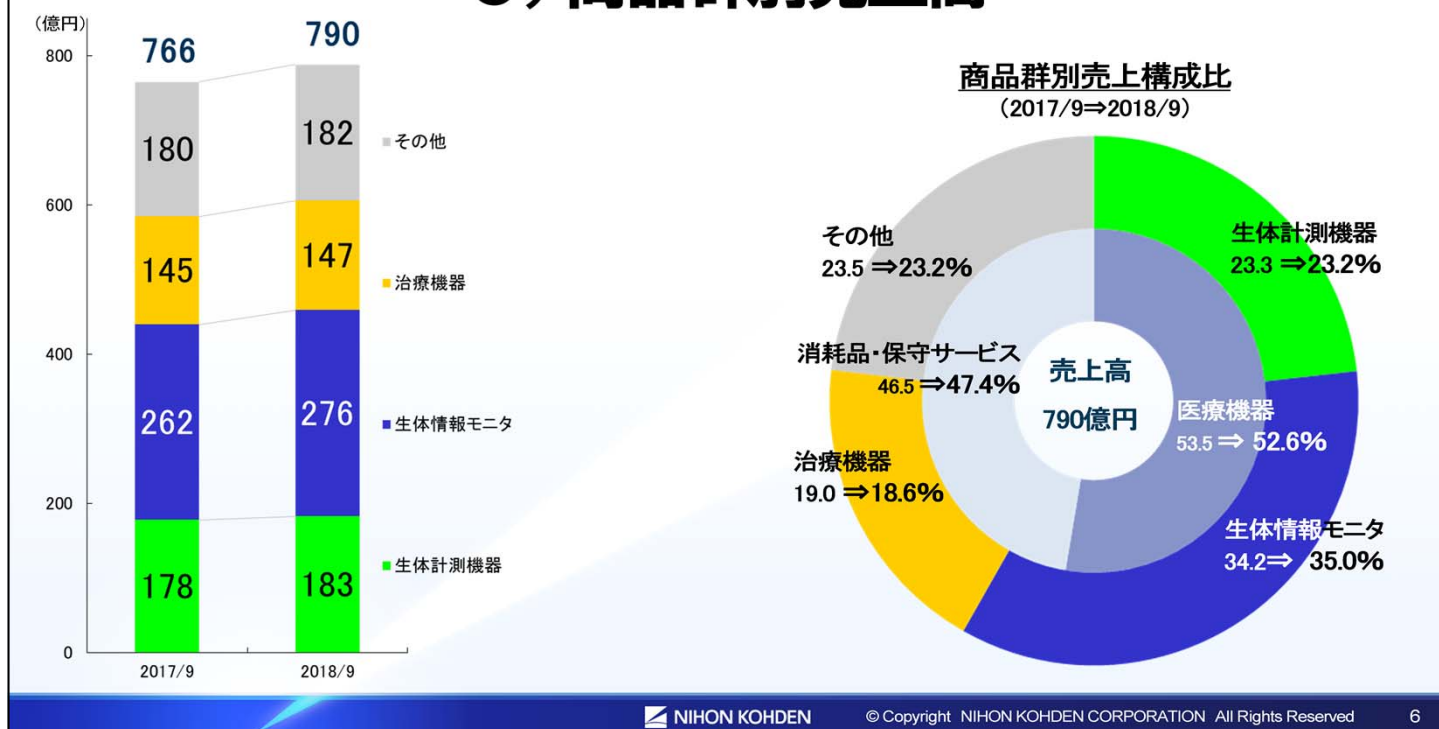
- 国内売上高は、前年同期比16億円増の578億円となりました。
- 市場別では、大学病院市場が好調に推移し、その他市場に含まれるAEDの販売も好調でした。
- 官公立病院市場も堅調でしたが、私立病院、診療所市場は前期を下回りました。
- 私立病院市場では、4月の診療報酬改定に対応する動きが少なかったこと、診療所市場では、自社品の販売に注力した結果、現地仕入品が減少したことが影響しました。

4) 海外売上高



- 海外売上高は、前年同期比7億円増の211億円となりました。
- 米州は、8億円増の104億円、現地通貨ベースでは、10%増加しました。米国は、生体情報モニタ、脳神経系群を中心に好調に推移しました。中南米は、現地通貨ベースでは微増、円ベースでは減収となりました。ブラジル、メキシコが好調に推移したものの、コロンビアが低調でした。
- 欧州は、1億円減の35億円、現地通貨ベースでは、6%減少しました。ドイツ、イタリアは好調だったものの、ロシア、トルコが低調に推移しました。
- アジア州は、4億円増の66億円、現地通貨ベースでは6%増加しました。中近東は政情不安の影響で低調でしたが、中国、韓国、タイが好調に推移しました。
- その他地域では、エジプトでの商談が下期にずれ込んだ影響もあり、減収となりました。

5) 商品群別売上高



- 商品群別の売上高の状況は、ご覧のとおりです。全ての商品群で売上を伸ばすことが出来ました。
- 国内外での消耗品事業の強化を受け、消耗品・保守サービスの割合は、47.4%へ増加しました。

5.1) 生体計測機器

	前第2四半期 累計(2017/9)	当第2四半期 累計(2018/9)	増減率(%)	(単位:百万円)
脳神経系群	3,315	3,448	4.0	
心電計群	3,077	3,281	6.6	
心臓カテーテル検査装置群	6,552	6,902	5.3	
その他(診断情報システム等)※	4,888	4,719	△ 3.5	
生体計測機器合計	17,833	18,351	2.9	
うち国内売上高	14,264	14,387	0.9	
うち海外売上高	3,568	3,964	11.1	

※その他には、診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。

脳神経系群、心電計群、心臓カテーテル検査装置群、診断情報システムともに堅調に推移
 脳神経系群は米州、心電計群はアジア州で好調に推移



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

7

- 「生体計測機器」は、全体で、2.9%増の183億円となりました。
- 国内は、0.9%増の143億円となりました。脳神経系群、心電計群、心臓カテーテル検査装置群、診断情報システムともに堅調に推移しました。
- 海外は、11.1%増の39億円となりました。脳神経系群が米州、心電計群がアジア州で好調に推移しました。米国での脳波計の販売体制の見直し、中国での心電計の新製品効果が寄与しています。

5.2) 生体情報モニタ

	前第2四半期 累計(2017/9)	当第2四半期 累計(2018/9)	増減率(%)	(単位:百万円)
生体情報モニタ合計	26,248	27,667	5.4	
うち国内売上高	16,148	16,718	3.5	臨床情報システムの更新商談が増加、 センサ類などの消耗品も好調
うち海外売上高	10,100	10,948	8.4	米州での売上が大幅に伸長、アジア州も 堅調に推移



NEW!



ベッドサイドモニタ
CSM-1500/1700



消耗品関連

※日本光電独自の血圧測定アルゴリズム。血圧カフを締め付けず、短時間で測定。

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8

- 「生体情報モニタ」は、全体で5.4%増の276億円となりました。
- 国内は、臨床情報システムの更新商談が増加し、センサ類などの消耗品も好調に推移したことから、3.5%増の167億円となりました。
- 海外は、8.4%増の109億円となりました。米州では、特に米国での売上が大きく伸びたほか、アジア州も堅調に推移しました。

5.3) 治療機器

	前第2四半期 累計(2017/9)	当第2四半期 累計(2018/9)	増減率(%)	(単位:百万円)
医科向け除細動器	2,572	2,453	△ 4.6	【国内】前年同期並み 【海外】欧州、アフリカ市場で低調に推移
A E D	6,694	7,031	5.0	
ペースメーカー・ICD	1,593	1,558	△ 2.2	【国内】増設・更新需要の回復により 販売台数増加 【海外】米州、欧州で低調に推移
人工呼吸器	934	993	6.4	
その他	2,752	2,704	△ 1.7	
治療機器合計	14,546	14,741	1.3	
うち国内売上高	10,143	10,528	3.8	
うち海外売上高	4,402	4,213	△ 4.3	
(参考) AED販売台数	38,900台	44,200台	13.6	
うち国内販売台数	20,000台	24,700台	23.5	



除細動器
TEC-5600シリーズ



AED
AED-3100



心臓ペースメーカー
Zenex MRI



人工呼吸器
HAMILTON-C1



CPRアシスト
CPR-1100

- 「治療機器」は、全体で1.3%増の147億円となりました。国内は3.8%増の105億円、海外は4.3%減の42億円となりました。
- 医科向け除細動器は、前期が好調だった反動もあり、4.6%減の24億円となりました。
- AEDは、販売台数が全体で44,200台、売上は5%増の70億円となりました。国内では、増設や更新需要の回復により、販売台数が増加しましたが、海外では、デフイブテックのAEDが米州、欧州で低調に推移しました。

5.4) その他

	前第2四半期 累計(2017/9)	当第2四半期 累計(2018/9)	増減率(%)	(参考) 比較可能 ベース
検体検査装置	5,033	4,234	△ 15.9	3.4
画像診断装置、 研究用機器他※	12,986	14,055	8.2	0.8
その他合計	18,019	18,290	1.5	
うち国内売上高	15,684	16,223	3.4	
うち海外売上高	2,335	2,066	△ 11.5	

(単位:百万円)

←【国内】区分変更の影響を除くと堅調。
新製品が寄与
【海外】中南米、欧州、アジア州で増収

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。

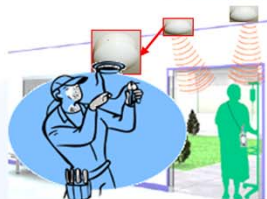
2019/3期から従来「検体検査装置」に区分していた他社製検体検査装置と画像診断装置のセット商談を「画像診断装置、研究用機器他」に区分しています。



全自動血球計数器
MEK-9100



NEW!
全自動血球計数・
免疫反応測定装置
MEK-1303



設置工事・保守サービス

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

10

- 「その他商品群」におきましては、全体で1.5%増の182億円となりました。
- 国内は、3.4%増の162億円となり、新製品の血球計数器が売上に寄与しました。
- 海外は、11.5%減の20億円となりました。血球計数器が、中南米、欧州、アジア州で増加したものの、現地仕入品が前期を下回りました。
- これまで「検体検査装置」に区分していた、国内における他社製検体検査装置と画像診断装置のセット商談を、当期から「画像診断装置、研究用機器 他」の区分に変更しています。この影響を除く検体検査装置は、増収となっています。

6) 財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2018/3	当第2四半期末 2018/9	増減額		前期末 2018/3	当第2四半期末 2018/9	増減額
流動資産	120,687	115,309	△ 5,377	流動負債	44,601	36,688	△ 7,912
たな卸資産	23,098	26,623	3,524	有利子負債	488	408	△ 79
有形固定資産	20,324	20,203	△ 121	固定負債	3,953	4,164	211
無形固定資産	5,079	4,761	△ 318	純資産	109,355	112,671	3,316
投資その他資産	11,818	13,250	1,432				
資産合計	157,910	153,525	△ 4,385	負債・純資産合計	157,910	153,525	△ 4,385
たな卸資産回転月数	3.0ヵ月	3.5ヵ月		自己資本比率	69.3%	73.4%	

【たな卸資産増加理由】

- ・製品在庫が増加(+3,341百万円)
 - 例年と同様、売上の年度末集中の影響
 - 下期新製品生産開始に備え、生産平準化
 - 出荷待ち在庫が増加

- 総資産は43億円減少し、1,535億円となっています。
- たな卸資産につきましては、下期の新製品の生産開始に備え、生産を平準化したことから、製品在庫が増加しました。回転期間は3.5ヵ月となりました。

7) 設備投資と研究開発費

(単位:百万円)

	前第2四半期 累計(2017/9)	当第2四半期 累計(2018/9)	2018/3 前期実績	2019/3予想	
				期初	11月2日修正
設備投資額	1,003	1,375	3,430	4,000	3,900
減価償却費	1,571	1,630	3,338	3,900	3,800
研究開発費	3,772	3,741	7,226	8,500	8,000

【設備投資の上期実績】

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備

【期初計画と11/2修正計画との差異】

・研究開発費 △5億円
・維持・改良費※ +5億円

※市場投入後新製品の機能追加・改良に係る開発費用

【2019/3期設備投資計画】

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、基幹システムのサーバ更新

- 設備投資は13億円、減価償却費は16億円、研究開発費は37億円となりました。当期は複数の新製品があり、想定よりも維持・改良の工数がかかったことから、新製品の開発に若干の遅れが出ています。
- 通期につきましては、計画を一部見直し、設備投資は39億円、減価償却費は38億円に変更しました。また、研究開発費は、期初計画から5億円相当の工数を維持・改良に振り分けたため、80億円に見直しました。

2

通期の業績見通し

1) 経営環境

国内

2025年医療・介護の将来像

- ・医療の機能分化・強化と連携
- ・地域包括ケアシステムの推進

2018年4月 診療報酬改定 本体0.55%増

【病院】入院医療評価体系の再編・統合

【診療所】オンライン診療、かかりつけ医機能強化加算の新設

- ・各都道府県は地域医療構想調整会議で個別の病院名や転換病床数等の具体的対応方針を2018年度末までに協議
- ・地域医療介護総合確保基金 2018年度 934億円(医療)

- ・病院は、診療報酬改定、地域医療構想に沿って病床再編を具体化
- ・在宅医療の担い手である診療所は堅調に推移

海外

欧米諸国

- ・医療の質と効率性の向上
- ・米国IDN※1の拡大
- ・欧州GPO※2など集中購買の広がり

新興国

- ・一部地域で政治・政策動向に不透明感があるものの、景気は総じて堅調
- ・経済発展に伴う医療インフラ整備

医療機器の需要は底堅く推移

※1 IDN: Integrated Delivery Network 総合医療ネットワーク ※2 GPO: Group Purchasing Organization グループ購買組織

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

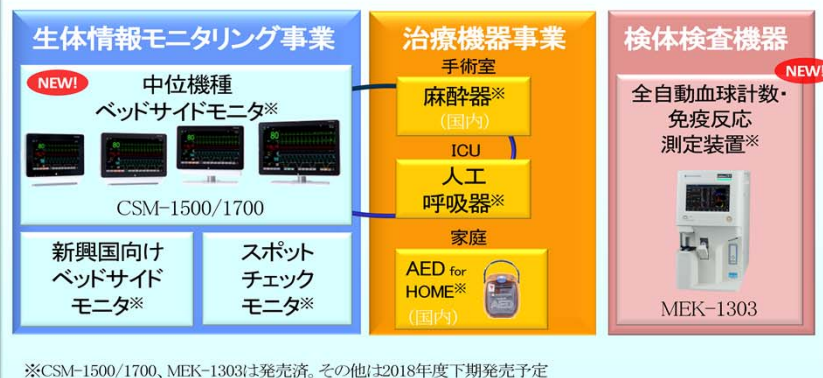
14

- 国内では、「2025年の医療と介護の将来像」に向けた、医療制度改革が進められており、病院市場では、入院医療評価体系の変更や地域医療構想に沿った病床再編が進む一方、診療所市場は堅調に推移すると考えています。
- 海外については、米国市場ではIDN拡大の動きが続いており、欧州市場ではGPO等による集中購買の広がりが見られます。また、新興国市場では、経済発展に伴う医療インフラの整備が、拡大傾向にあります。海外の医療機器の需要は、米国の政策動向や中東などでの政情不安の影響はあるものの、総じて底堅く推移すると考えています。

2) 下期の取り組み TRANSFORM 2020 高収益体質への変革

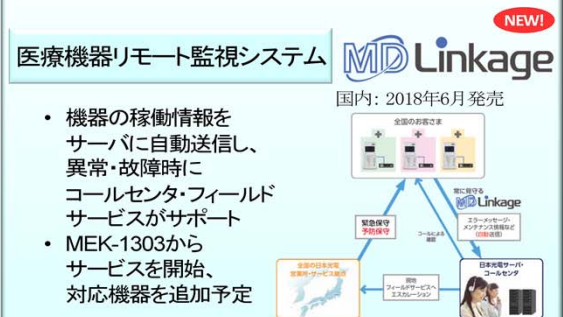
1 高い顧客価値の創造

新製品の早期立ち上げ



消耗品・保守サービスの売上拡大

2019/3期売上比率 43.4%(予想)



- 以上のような経営環境の下、下期は、高収益体質への変革、特に、粗利率の改善に引き続き注力します。
- 高い顧客価値の創造に向けては、新製品の早期立ち上げに注力します。生体情報モニタでは、中位機種のベッドサイドモニタに加え、新興国向けベッドサイドモニタ、スポットチェックモニタを投入します。治療機器では、麻酔器、人工呼吸器、家庭向けAEDの投入を予定しています。検体検査機器では、当社初となる一体型の全自動血球計数・免疫反応測定装置を発売しました。各製品のタイムリーな生産・出荷を目指します。
- 消耗品・保守サービスの売上拡大に向け、医療機器リモート監視システムMD Linkageを発売しました。まずは、検体検査機器からサービスを開始しますが、順次対応機器を追加する予定です。

2) 下期の取り組み

TRANSFORM 2020 高収益体質への変革

2 組織的な生産性の向上



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

16

- 組織的な生産性の向上に向けた取り組みをご説明します。
- 開発面では、総合技術開発センターの充実した研究開発・試験環境を活用し、開発効率の向上を推進します。
- 生産・物流面では、東日本物流センタの建設を進めています。機器と消耗品の同梱出荷により、物流コストの削減を目指します。
- グループ全体では、ICTを活用した業務プロセス改革を推進しており、ERPのグローバル展開を進めます。新興国の販売会社にも順次導入する予定です。また、国内においては、本社-支社支店間の業務のスリム化に引き続き取り組みます。

3) 通期の業績見通し

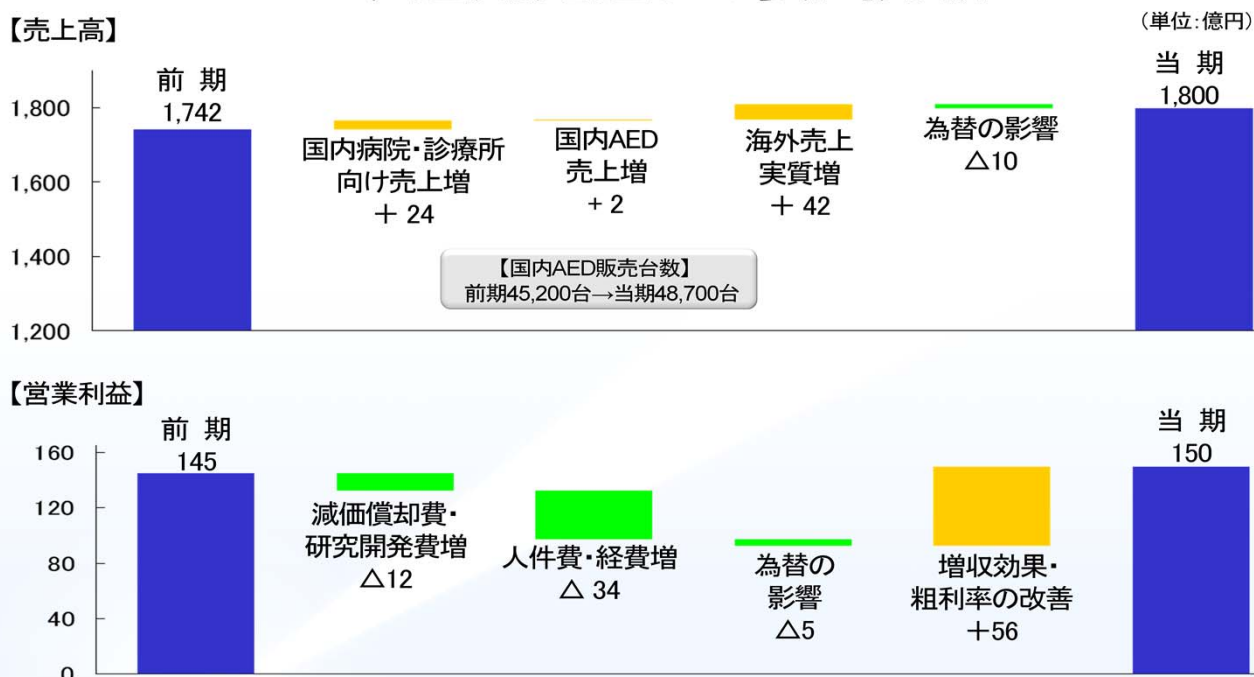
	前期実績 2018/3	当期予想 2019/3	増減率 (%)	(単位:百万円)
売上高	174,249	180,000	3.3	
国内売上高	128,144	130,700	2.0	
海外売上高	46,105	49,300	6.9	← 為替影響除く: +9%
売上総利益 (売上総利益率)	82,759 47.5%	86,800 48.2%	4.9	
営業利益 (営業利益率)	14,517 8.3%	15,000 8.3%	3.3	
経常利益	14,501	15,000	3.4	
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,154	10,300	12.5	
海外売上高比率	26.5%	27.4%		
平均レート		(期初の想定)		(下期)
米ドル	111.0円	105円		105円
ユーロ	130.0円	130円		130円

【地域別海外売上高】

	前期実績 2018/3	2019/3予想		増減率 (%)
		期初	11月2日修正	
米州	22,000	23,400	23,600	7.3
欧州	8,462	9,100	8,600	1.6
アジア州	13,634	14,100	14,600	7.1
その他	2,008	2,700	2,500	24.4
海外計	46,105	49,300	49,300	6.9

- 通期の業績見通しですが、期初予想から変更はございません。連結売上高は、前期比3.3%増の1,800億円を見込んでいます。
- 国内売上高は、2%増の1,307億円で、引き続き堅調に推移する見通しです。
- 海外売上高は、6.9%増の493億円、現地通貨ベースでは、9%の増加を見込んでいます。米州、アジア州は引き続き好調に推移する見通しです。一方、欧州は下期の回復を見込むものの、上期の減少分を補うまでには至らない見通しです。
- 利益面では、粗利率は、新製品の投入などにより、48.2%へ改善を見込んでいます。販管費につきましては、下期への期ずれがあるため、営業利益は、期初予想のとおり、3.3%増の150億円を見込んでいます。経常利益、純利益につきましては、ご覧のとおりです。
- 下期の為替の前提につきましては、ドルは105円、ユーロは130円としています。

4) 通期見通しの要因分析



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

18

- 国内売上高は、病院・診療所向けは24億円、AEDは2億円増加する見込みです。AEDの販売台数は、48,700台を見込んでいます。
- 海外売上高は、42億円の実質増、為替は10億円のマイナス影響を見込んでいます。
- 営業利益につきましては、マイナス要因としては、減価償却費・研究開発費が12億円増加、人件費・経費が34億円増加する見込みです。為替は5億円のマイナス影響、増収と粗利率改善による効果は56億円と見込んでいます。

[参考]商品群別売上高見通し/為替の影響

	前期実績 2018/3	2019/3予想			増減率(%)
		期初	11月2日修正	構成比(%)	
生体計測機器	39,323	40,200	40,500	22.5	3.0
生体情報モニタ	59,229	62,500	62,800	34.9	6.0
治療機器	32,892	33,600	33,400	18.6	1.5
その他	42,804	43,700	43,300	24.0	1.2
売上高合計	174,249	180,000	180,000	100.0	3.3

(ご参考)

消耗品・保守サービス	75,505	78,100	78,200	43.4	3.6
------------	--------	--------	--------	------	-----

為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
米ドル	3.0億円	1.1億円
ユーロ	0.5億円	0.2億円

- 商品群別の売上高見通しについては、ご覧のとおり、上期業績をふまえ修正しました。
- 生体情報モニタを中心にシェア拡大を図るとともに、消耗品・保守サービス事業の取り組みを、国内外で強化します。

3

当社の経営戦略

中期経営計画 TRANSFORM 2020

高収益体質への変革

基本方針

- 1 高い顧客価値の創造
- 2 組織的な生産性の向上

6つの重要課題

地域別事業
展開の強化

コア事業の
さらなる成長

新規事業の
創造

技術開発力の強化

世界トップクオリティの追求

企業体質の強化

人財育成・組織風土改革

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

21

- 3カ年中期経営計画「TRANSFORM 2020」では、2つの基本方針の下、高収益体質への変革を目指しています。
- 本日は、6つの重要課題のうち、「地域別事業展開の強化」「コア事業のさらなる成長」についてご説明します。

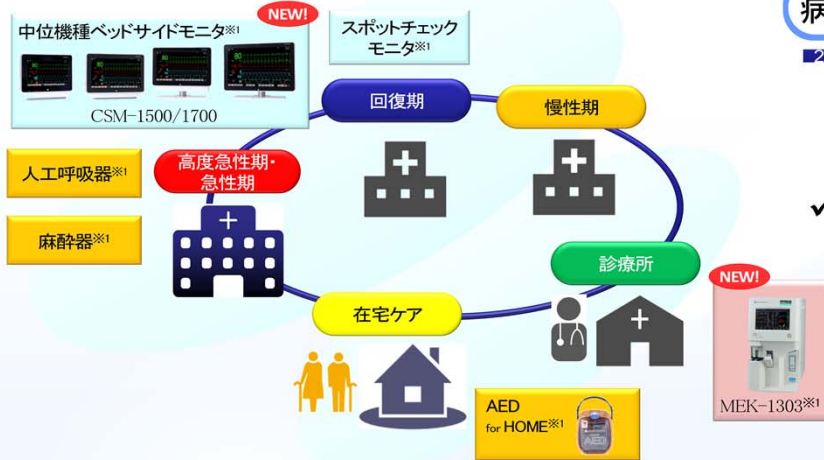
地域別事業展開の強化

日本

高齢社会の医療ニーズに応える新たな成長基盤の構築

- ✓ 病院経営の改善に貢献するソリューションの提供

- ✓ 販売・サービス体制の強化・再編



2016/4
病院営業 GP※2営業

2017/4
販売子会社制 ▶ 支社・支店制に移行

2018/4
首都圏に営業リソースを重点配備

- ✓ 地域医療連携に対応した商品ポートフォリオの拡充



※1 CSM-1500/1700、MEK-1303は発売済。その他は2018年度下期発売予定

※2 GP: General Practitioner 総合診療医

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

22

- 国内では、高齢社会の医療ニーズに対応するために、急性期医療から、回復期、慢性期、在宅医療を中心とした医療制度へ改革が進んでいます。
- このような市場環境の変化に対応するため、前期には、販売戦略の機動的な推進と業務効率の改善を目的として、販売会社制から支社支店制に移行しました。
- 当期は、さらに地域ごとの医療需要動向をふまえ、今後需要の増加が見込まれる首都圏地域に営業リソースを重点的に配備しました。その効果は徐々に現れていると考えています。
- 販売体制の強化に加え、更新需要が高まる病院市場に対しては、中位機種のベッドサイドモニタに加え、スポットチェックモニタ、人工呼吸器、麻酔器を新たに投入します。
- 今後の成長が期待される診療所、在宅市場向けには、クラウドを活用した新たなビジネスモデルを展開するとともに、当期は、一体型の全自動血球計数・免疫反応測定装置、家庭向けAEDを投入し、製品ポートフォリオを拡充します。

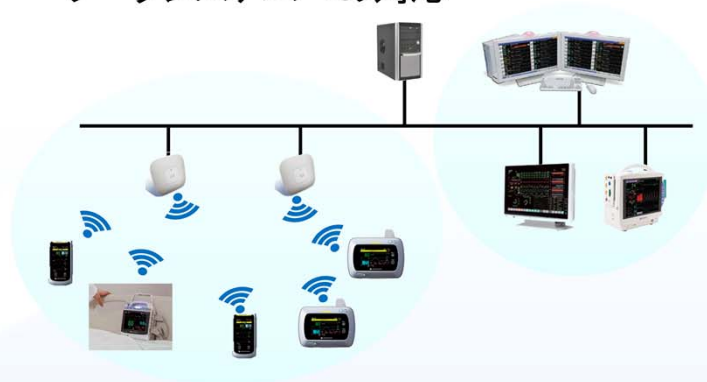
アメリカ

世界最大・最先端のアメリカでの事業基盤の強化

✓ 医療の質と効率の向上に貢献するソリューションの提供

✓ 現地開発体制の強化 **NKUSラボ**

✓ ワイヤレス技術を活用した大規模ネットワークシステムへの対応



2019/3期 収益改善に向けた取り組み

・モニタ新製品の投入



CSM-1500/1700※

スポット
チェック
モニタ※

・インストール体制の強化

・モニタシステム設置料金の適正化

※2018年度下期発売予定

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

23

- アメリカ市場においては、販売および現地開発体制の強化が効果を発揮し、生体情報モニタが好調に推移しています。
- 全米トップクラスの大学病院に導入されるなど、当社のブランド力が向上しており、2020年3月期に市場シェア12%の目標も視野に入ってきました。
- 下期には、中位機種種のベッドサイドモニタ、スポットチェックモニタを投入する予定であり、製品競争力の一層の強化を図ります。
- 大規模病院への納入が増える中、高度なネットワーク技術への要求が高まっており、モニタシステムの設置、稼働に際して、高い専門性が要求される状況になりつつあります。ネットワーク技術者を中心にインストール体制の増強を図るとともに、モニタシステムの設置料金の適正化を進め、収益性の改善に取り組めます。

新興国

新興国市場の医療ニーズに応える戦略的事業展開

✓ 新製品投入による提案力の強化



※ CSM-1500/1700は発売済。他は2018年度下期発売予定

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

24

- 新興国市場では、新興国市場の医療ニーズに応える戦略的事業展開を推進しています。
- 製品面では、市場別の製品ポートフォリオを拡充し、提案力の強化を図ります。
- 先進国と同等の医療水準が求められるハイエンド市場向けには、付加価値の高い日本の開発・生産品を供給します。
- ミドル・ローエンド市場向けには、コスト競争力の高い上海の開発・生産品を供給します。
- 当期は、新興国市場においても、ご覧の新製品を投入する予定です。

コア事業のさらなる成長



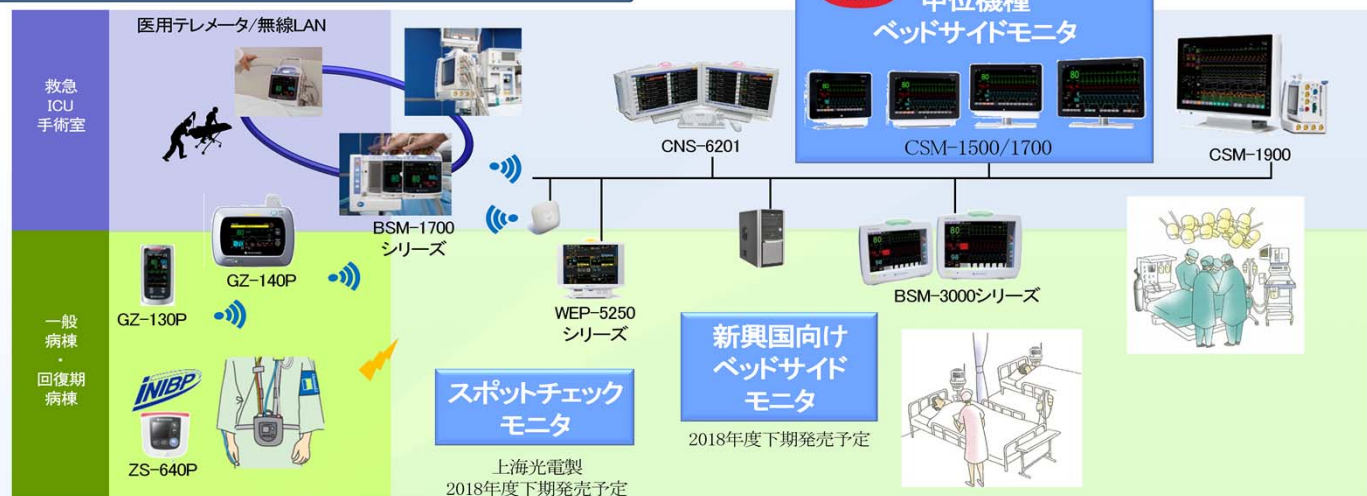
NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

25

✓ 医療の質と効率、患者安全の向上に貢献するモニタリングソリューションの提供

製品ラインアップの拡充・ネットワーク対応



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

26

- 成長の牽引役である生体情報モニタリング事業では、急性期から回復期にいたるまで製品ラインアップを拡充するとともに、ネットワーク対応を強化することで、競争力の向上を図ります。
- 主力となる中位機種のベッドサイドモニタでは、新たにCSM-1700を8月に発売しました。
- 下期には、新興国向けベッドサイドモニタ、上海光電で開発した病棟向けスポットチェックモニタを投入する予定です。

競争力の高い製品の投入

救急

手術室

ICU

CCU

病棟

NEW! 中位機種ベッドサイドモニタ

12.1 inch

15.6 inch

15.6 inch

19 inch



CSM-1501

CSM-1502

CSM-1701

CSM-1702

— 一体型 —

— 分離型 —



- ・モニタ本体と入力箱が分離
- ・自由なレイアウトが可能

上位機種



CSM-1901

上位機種CSM-1901の継承

- ・快適な操作性 **G-Scope機能**



- ・診療・治療に役立つ直感的レビュー画面



シームレスモニタリングの実現

- ・搬送中のバイタルデータは、ホストモニタ接続時にセントラルモニタに自動送信



独自機能による高付加価値化

- ・EEGヘッドセットで脳波モニタリング（救急、ICU等）
- ・ベッドサイドモニタで迅速な超音波画像診断（救急等）

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

27

- 今回発売した中位機種ベッドサイドモニタは、今後5年から10年を見据えて、新たな技術トレンドに対応することを想定した、モニタリングシステムの次世代プラットフォームであり、ミドルからハイエンド市場で主力となる製品です。
- 汎用性の高い一体型のCSM-1500に加え、ディスプレイと入力箱を分離したCSM-1700では、医療従事者の動線に配慮した自由なレイアウトを可能としました。
- 機能面では、上位機種であるCSM-1901の機能や操作性を継承し、診断に役立つ機能を拡充しているだけでなく、ネットワーク機能の強化と搬送用モニタとの組み合わせにより、病院内全域をカバーするシームレスなモニタリングを実現します。
- この新たなプラットフォームを活用し、様々な診断技術と融合することで、他社にはない新たな臨床的価値を創造します。

✓ コア技術の融合によりモニタの機能を拡張、簡単、スピーディな検査を実現

脳波モニタリング

- ベッドサイドモニタCSM-1700とEEGヘッドセットの連携
(救急、ICUでのNCSE※の早期発見をサポート)

2018年度下期対応予定

- 簡単な装着で、
迅速に脳波を測定
- Bluetooth®で送信



脳波計で測定

ベッドサイドモニタで
脳波モニタリング

- 世界各国でPR



CerebAir



2018年10月
欧州集中治療医学会
実演デモ

※非けいれん性てんかん重積状態 (Nonconvulsive Status Epilepticus: NCSE)
原因不明の意識障害の1つ。けいれんを伴わないため、発作が起きていることが分かりにくい。
早期の診断・治療が重要

モニタ
で初

ポイント・オブ・ケア超音波

- ベッドサイドモニタCSM-1700に接続
(FAST※など救急での迅速な超音波検査をサポート)

USBで接続

NEW!



超音波画像診断装置
TUP-C035J



- 専用タブレットPCに接続するとポータブルエコーに



外来でも



ICUでも



訪問診療でも

病棟ラウンドでも

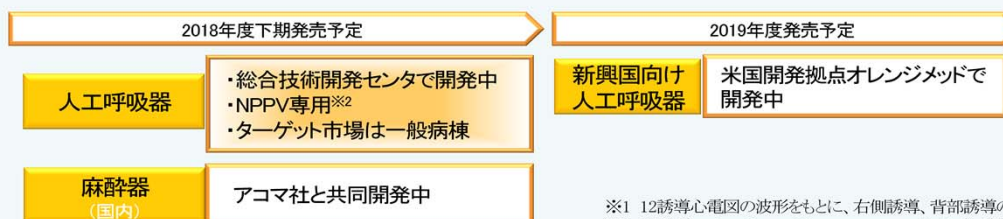
※Focused Assessment with Sonography for Trauma 救急の外傷患者に対して、心臓腔、腹腔、
胸腔の出血の有無を確認するため行う迅速簡易超音波検査

- 臨床検査機器事業では、脳波や超音波など臨床検査機器の技術をモニタに融合し、新たなソリューションを実現しました。
- 脳波では、簡単な装着で迅速に脳波を測定できるEEGヘッドセットをCSM-1700に接続することにより、救急やICUにおける、非けいれん性のてんかん発作の早期スクリーニングが可能となります。10月に開催された欧州集中治療医学会でも実演を行い、大きな関心を集めました。
- 生体情報モニタとしては世界で初めて、超音波プローブを接続し、エコー画像を表示する機能を搭載しました。外傷患者など、救急現場での迅速な超音波検査をサポートします。また、超音波プローブは、モニタだけでなく、タブレットPCに接続することで、ポータブルエコーとしても活用できます。
- 今後も、事業部門を超えたコア技術のさらなる融合により、新たな臨床的価値の創造を目指します。

✓ 除細動器・AED市場におけるリーダーポジションの確立



✓ 人工呼吸器、麻酔器事業の早期立ち上げ



※1 12誘導心電図の波形をもとに、右側誘導、背部誘導の波形を演算により導出する技術
 ※2 NPPV (noninvasive positive pressure ventilation) : 非侵襲的陽圧換気。気管内挿管や気管切開を行わず、人工呼吸管理

- 治療機器事業では、除細動器・AED市場におけるリーダーポジションの確立に向けて、製品ポートフォリオの拡充を図ります。
- 下期には、家庭向けのAEDを発売する予定です。現在、心臓突然死の7割以上が在宅時に発生しており、家庭における救命率の向上が課題となっています。
- 現在開発中の救急車搭載用の除細動器では、生体情報モニタの技術であるiNIBPやAudible Cue、心電計の技術である導出18誘導心電図など、独自のコア技術を搭載し、他社にない顧客価値の創造を目指します。
- 下期には、当社初となる自社製人工呼吸器を投入する予定です。一般病棟を対象に、気管挿管をすることなく、非侵襲で換気を行う呼吸器であり、今後の市場拡大が見込まれます。また、アコマ社と共同開発している麻酔器も下期に発売する予定です。
- 2019年度には、米国で開発している新興国向けの人工呼吸器も投入を予定しており、人工呼吸器・麻酔器事業の早期立ち上げに注力してまいります。

経営目標値(2020年3月期)

売上高	1,900億円	
国内売上高	1,350億円	
海外売上高	550億円	地域別海外売上高
営業利益 (営業利益率)	200億円 (10.5%)	米州 273億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	137億円	欧州 82億円
ROE	12.0%	アジア州 165億円
		その他 30億円

想定レート: 1USD=110円、1EUR=115円

- 中期経営計画の目標値はご覧のとおりです。
- 2020年3月期の目標達成に向け、引き続き、高収益体質への変革に重点的に取り組んでまいります。

利益配分の基本方針

成長投資

株主還元

将来の企業成長に必要な投資を継続

研究開発

設備投資

M&A、提携

人財育成

✓ 長期にわたって安定的な配当を継続

✓ **連結配当性向30%以上を目標**

✓ 配当を重視し、自己株式の取得は機動的に検討

(円) 【一株当たり配当金・連結配当性向の推移】



自己株式の取得・消却状況

2018/3/2
50万株を取得



2018/5/21
100万株を消却



自己株式保有: 357万株
(持株比率: 4.0%)

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

31

- 利益の配分につきましては、研究開発や設備投資、M&Aや提携、人財育成など、将来の成長に必要な内部留保の確保に配慮しながら、長期にわたって、安定的な配当を継続することを基本方針としており、配当性向は30%以上を目標としています。
- 株主還元は、配当を重視しており、自己株式の取得につきましては、機動的に検討します。
- 当期の年間配当金は35円、配当性向は29%の予定です。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】経営戦略部

【連絡先】Tel.03-5996-8003